

ず。無縁の悪人謗法の者に祕法をあたえずば、覺徳比丘は無量の破戒の者に涅槃經をさづくべからず。不輕菩薩は誹謗の四衆に向ていかに法華經をば流通させ給しぞ。されば機に隨て法を説と申は大なる僻見なり。問云、龍樹・世親等は法華經の實義をば宣給ずや。答云、宣給はず。問云、何なる教をかのべ給し。答云、華嚴・方等・般若・大日經等の權大乘顯密の諸經をのべさせ給て、法華經の法門をば宣させ給はず。問云、何にをもつてこれをしるや。答云、龍樹菩薩の所造の論三十萬偈。而ども盡て漢土日本にわたらざれば其心しりがたしといえども、漢土にわたれる十住毗婆沙論・中論・大論等をもつて天竺の論をも比知して此を知なり。疑云、天竺に残る論の中にわたれる論よりも勝たる論やあるらん。答云、龍樹菩薩の事は私に申べからず。佛記給、我滅後に龍樹菩薩と申人南天竺に出べし。彼人の所詮は中論という論に有べしと佛記給。隨て龍樹菩薩の流、天竺に七十家あり。七十人ともに大論師なり。彼の七十家の人々は皆中論を本とす。中論四卷二十七品の肝心は因緣所生法の四句の偈なり。此の四句の偈は華嚴・般若等の四教三諦の法門なり。いまだ法華開會の三諦をば宣給はず。疑云、汝がごとくに料簡せる人ありや。答云、天台云、莫以中論相比。又云

天親龍樹内鑒冷然^{ニシテハフ}外適時宜^{ニキニ}等云云。妙樂云、若論^{セバ}破會^ヲ者未^ク若^カ法華^ニ故云云。從義云、

龍樹天親未^ク若^カ天台^ニ云云。問云、唐の末に不空三藏一卷の論をわたす。其名を菩提心

論となづく。龍猛菩薩の造なり云云。弘法大師云、此論は龍猛千部の中の第一肝心の

論と云云。答云、此論一部七丁あり。龍猛の言ならぬ事處々に多し。故に目錄にも或

は龍猛或は不空と兩方也^②。いまだ事定らず。其上此論文は一代を括れる論にもあら

ず。荒量なる事此多し。先唯眞言法中の肝心の文あやまりなり。其故は文證現證あ

る法華經の卽身成佛をばなきになして、文證も現證もあとかたもなき眞言經に卽身

成佛を立候^テ。又唯という唯の一字は第一のあやまりなり。事のていを見るに、不空三

藏の私につくりて候か^③。時の人にをもく(重)せさせんがために事を龍猛によせたる

か。其上不空三藏は誤る事かずをほし。所謂法華經の觀智の儀軌に、壽量品を阿彌陀

佛とかける、眼の前の大僻見。陀羅尼品を神力品の次にをける、屬累品を経末に下

る、此等はいうかひなし。さるかと思れば、天台の大乗戒を盜^シで代宗皇帝に宣旨を申

五臺山の五寺に立たり。而も又眞言の教相には天台宗をす^④(爲)べしといえり。かた

がた誑惑の事どもなり。他人の譯ならば用^フる事もありなん。此人の譯せる經論は信

① 第39紙20行② 也ニに③ かニを德④ 第40紙18行⑤